

目 標

管内民有林と連携した森林施業を推進して、林業による地域振興に貢献する。

取組内容

【森林経営計画策定に向けた支援】

空知地区市町村森林整備計画実行管理推進チームから、美唄市有林の森林整備を進めるため、林分調査の協力要請があり、ドローンによる写真撮影や森林資源調査を行った。

調査後、市や森林組合担当者に、全天球カメラを使っての調査方法についても説明した。



【連携に向けての協議】

芦別市から「次期森林整備計画で市有林の伐採(主伐)を予定しており、国有林の森林作業道を搬出に利用させてほしい」との要請があり、今後の連携を視野に入れて、署、市担当者及び振興局担当者も一緒に現地を確認した。



結果

ドローンによる調査は、当署が担い、7月～10月まで延べ9回の空撮を行った。作成したオルソ画像は路網作設や林分調査の補足資料として活用するため、市町村森林整備計画実行管理推進チームに提供した。紅葉時期の画像もあり、「樹種判別がしやすい」と好評だった。

標準地(森林資源)調査では、初めて調査をする市町担当者もいることから標準地の設定方法、胸高直径の測定、バーテックスでの樹高測定等の方法について、必要な助言を行った。

調査終了後、全天球カメラを使っての調査方法について説明し、「標準地調査と比べ、材積を把握することは容易だが、HA当たりの本数の把握はできない」等、長所・短所や国有林での活用法について説明。経験が浅い者でも材積の把握が可能とのことで、参加者も熱心に話を聞いていた。

現地確認では、市担当者から「市有林の現地概要や次期森林整備計画で3箇年の主伐を予定している」等の説明があり、その後、市有林までの森林作業道や河川の状況などについて意見交換をしながら確認した。

出席者から「河川管理者は芦別市?」、「川の直ぐ側に土場があるが、そのまま使うか考える必要があるのでは?」などの質問や意見があった。

国有林としても次期森林計画で流域全体の森林整備を行う必要から、森林作業道を現状のまま使用するのか、林業専用道に格上げ工事をするのかなども含めて、今後、更に検討していくこととした。

今年度の総括 次年度の予定

森林経営計画策定に向けた支援については、市町村森林整備計画実行管理推進チームの構成員として振興局と連携し、林分調査を予定している市町の意向を確認しながら支援を行っていく。

連携に向けた協議については、次年度、市有林に隣接している国有林についても現地確認し、路網の共有だけでなく、ほかに連携した取組が可能か具体の協議を進めていく。